

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究 (C)
 研究期間：2007～2008
 課題番号：19592619
 研究課題名 (和文)：看護職の国家間移動と太平洋沿岸諸国における看護職の労働実態に関する調査

研究課題名 (英文)：International Collaboration to Study the Occupational Health of Nurses

研究代表者：
 石原 逸子 (ISHIHARA ITSUKO)
 産業医科大学・産業保健学部・教授
 研究者番号：30221071

研究成果の概要：

看護職のマンパワー不足は、日本ばかりでなく世界的規模で拡大しており、看護職の労働実態に関する国際共同研究は、重要性を増している。8カ国の産業看護研究者を招聘し、2007年、2008年に2回の国際会議を開催し、新卒看護職に対する5年間の追跡調査を開始した。2年間の研究成果は、①研究の枠組みと共通の質問紙の作成と検討、②参加各国でのパイロット調査、③Web上でのデータの共有化、④産業看護研究者による国際的ネットワーク化の礎となるコアグループの形成である。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	2,000,000	600,000	2,600,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
年度			
総計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・地域・老年看護学

キーワード：産業看護、国際共同研究、労働安全衛生、労働環境、看護師不足、看護労働のグローバル化

1. 研究開始当初の背景

看護職のマンパワー不足は、どの国においても深刻な問題となっているが、今後10年間日本を含む多くの国では、急性期・慢性期・長期療養型医療において深刻な看護師不足が予測されている。経済のグローバル化に伴う看護師の越境労働の増加等が、この状況に拍車をかけている傾向もある。また、国際調査等によると、離職の要因として職場での劣悪な労働環境の指摘が指摘されている。よって、グローバルな視点から看護師不足の問題について調査することは、重要である

2. 研究の目的

本研究は、看護師の流出国ばかりでなく流入国を含む太平洋沿岸諸国（韓国、フィリピン、タイ、中国、オーストラリア、米国、日本）、及び、英国の国家間移動と新卒看護職の労働実態について調査し、看護職の労働環境、作業環境の身体・精神面への影響、給与や処遇を含む社会経済的要因と離職動向について明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

- (1) 研究参加国より研究者を招聘し、研究の背景と理論的な枠組みの理解を図り、共通の質問紙を作成する。
- (2) 新卒看護職を対象とした5年間に渡る追跡調査による縦断的研究とする。
- (3) データを共有化し国際比較検討の方法をとり産業看護研究者による研究のネットワーク化を図る。

Proposed Longitudinal Study

- Multi-national study of nurses
 - ◆ Network of researchers
 - ◆ Share core survey & protocols
 - ◆ Country level data analyses
 - ◆ Centralized international data analyses
 - ◆ Executive steering committee
- Follow waves of new nurses for 5 or more years
 - ◆ Enlist university schools of nursing
 - ◆ Over time, expand to more schools and countries
- Study Outcomes
 - ◆ Employment
 - Job changes
 - Career changes
 - Migration (domestic, international)
 - ◆ Health changes
 - Occupational illness/injury
 - Overall well being
 - ◆ Eventually, organizational & patient outcomes

SCHOOL OF NURSING
UNIVERSITY OF CALIFORNIA SAN FRANCISCO
Japan
Faucett/07

Longitudinal Data

- Demographics
- Educational background
 - ◆ Degree education
 - ◆ Continuing education
- Changes in employment
 - ◆ Job tasks
 - ◆ Job tools/training
 - ◆ Jobs
 - ◆ Employers
 - ◆ Geographical regions
- RN H&S outcomes
- Job satisfaction
- Patient outcomes

- Working conditions
 - ◆ Job demands
 - ◆ Rewards
 - ◆ Decision authority
 - ◆ Resource adequacy
 - Equipment
 - Expertise and/or leadership
 - Staff Personnel
 - ◆ Work barriers
 - ◆ Team collaboration & communication
 - ◆ Work environment
 - Functional
 - Physical
 - Temporal
 - Social/interpersonal

SCHOOL OF NURSING
UNIVERSITY OF CALIFORNIA SAN FRANCISCO
Japan
Faucett/07

4. 研究成果

- (1) 国際シンポジウム、2回の国際ワークショップを開催した。
 - ① 参加国の進捗状況の報告
研究参加メンバーより、自国の看護・介護、看護師教育に関する問題点と研究の進捗状況について報告があった。

米国 (Faucett & Laundry)

2020年までには全米において、約1万人の看護師が不足することが予測されている。看護師不足は、高齢社会（第2次大戦後のベビーブームに生まれた人口層の定年）と多民族や多言語社会の影響が他の状況と複雑に絡まり生じている。給与の改善や看護の専門性についての一般市民への情報提供を活発にすれば、潜在的な集団を看護の学部教育への入学生として惹きつけることができる。しかし2008年には、406校の学部で、教員不足（高齢化や給与の問題）が深刻となり、28,000人もの学生

が入学できなかった。

ICOHNの調査に関する進捗状況は、カナダとUKの看護職のリーダーと接触は図っている。さらに、メリーランド大学やカリフォルニア大学の教員とも連絡を取り合っている。

研究費については、Web上で質問紙によるパイロット調査を行う為の資金は獲得している。よって、パイロット調査のための倫理委員会への申請書を現在作成中である。2009年7月までには当該調査を終了する予定である。パイロット調査、研究参加国における調査終了後には、本調査用紙を用いて国際的な調査を企画する為に、国際看護協会と接触を図る準備を進めている。

香港 (Kin)

香港は、他の多くの国と同様に看護師の不足が深刻であり、2007年の質的研究によると、看護職の労働環境が看護職に離職を決意させる主な要因であると報告されている。

香港での調査は、新卒看護職に対して身体・心理的労働環境の影響について調査する予定である。

横断的研究とし、一地方都市の大学の卒業生をパイロットサンプルとして調査を行なう。

調査は2009年9月に実施予定であり、現在大学の倫理委員会に申請書を提出している。

タイ (Surintone)

看護師不足は深刻であり、看護師1人に対し、市街地では人口300、地方では人口1000の比率である。タイ南部の看護師不足は深刻であり、タイ政府が奨学金を出し養成を行なっているが、その結果、年間80名だった入学生が200名と増加し、教員不足も深刻である。タイ看護協会は、タイ政府の支援を受け、看護師の処遇等に関するデータベースを作成中である。

韓国 (June)

市街中心地にある病院の80-90%が私立の病院であり、看護師不足は深刻ではないが、地方においては、看護師不足が深刻である。地方の市立の病院では、給与が安い為、外国人看護師（中国系韓国人）を雇用したり、地方の小さな私立病院では、准看護師を採用したりしている。また、長期療養型施設においては、例外的な措置として中国系韓国人を看護助手として採用し看護師の業務を行なわせており、問題となっている。韓国看護協会はこのような状況に対し反対している。

フィリピン (Lily Ann)

看護師不足は、地方で深刻であり、中心市街地は看護師が過剰供給されている。509 校もの学部で看護師の養成を行っているが、修士課程は 2 校しかなく、修士のない教員が学部で教えている状況である。国家試験の合格率は 43% であり、失敗しても複数回に渡り受験することができる。他国で看護師としての就業の機会が得られる為、医師等が看護師の養成プログラムを受講したりしているが、正規のカリキュラムを終了しないで国家資格を取得するケースもある。

日本 (石原)

介護現場での人手不足からフィリピン、インドネシアから看護師を受け入れ、日本の看護師の国家資格を取得後、主に介護ケア施設等働くことになっている。問題は語学力であり、国家試験に合格することは、かなり厳しい状況である。不合格の場合は、自国に帰国しなければならない。

日本人の看護師のストレスやバーンアウトは、他の先進諸国 (イギリス、米国等) と比較しかなり高い値となっている。

(2) 8 カ国共通の質問紙の開発・作成を行なった

① 質問紙の構成

質問紙は、A: あなた自身について、B: あなたの所属機関・病院組織について、C: あなたの職場の労働環境について、D: 職場でのあなた自身についての 4 つのセクションで構成されている。

本質問紙 (原案) の特色は、労働環境が看護職の健康レベル (身体的・精神的) と雇用継続/離職動向にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにできる構造とした点である。以下は、質問紙の構成内容である (図 1.)。

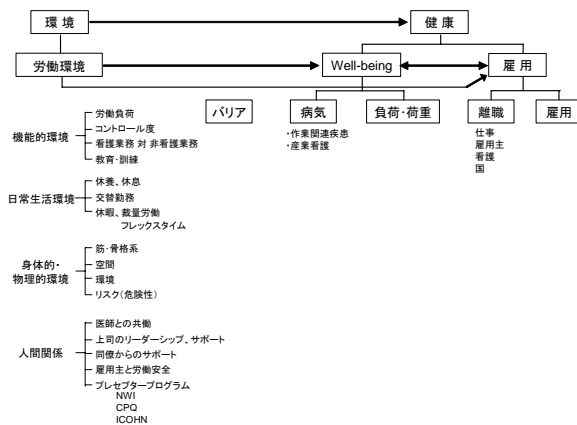


図 1. 国際比較の為の質問紙の枠組みと構成

- 労働環境
 - 機能的環境 [労働負荷、裁量権 (仕事コントロール度)、看護業務/非看護業務、教育・訓練の機会]
 - 日常生活環境 [休養、休息、交代勤務、休暇、裁量労働 (フレックスタイム)]
 - 身体的・物理的環境 [筋骨格系への影響、看護ケア実行時の空間の広さ、身体侵襲リスク (危険性)]
 - 人間関係 [医師との協働、上司のリーダーシップ・サポート、同僚からのサポート、雇用主と労働安全衛生管理、プレセプタープログラム]
 - 看護職の身体的・精神的健康レベル
 - 作業関連疾患及び労災事故 [筋骨格系の疾患、針刺し事故、転落や暴力による急性外傷]
 - 一般的健康状態
 - 心理的負荷・緊張 [疲労、燃え尽き、心的疲弊感、過剰適応]
 - 離職意図、離職動向
 - 雇用: 安定的雇用、職位と給与
 - 個人的因子 (基本的属性)
 - 年齢、性別、(人種)、身長/体重比 (BMI)、既婚の有無、家族介護・子育て
 - 教育的背景、職歴、喫煙、飲酒、睡眠
- ② Web 上での情報交換と質問紙原案の作成

(3) 質問紙原案に対するパイロット調査を日本において実施した。その結果に基づき質問紙原案の修正を 2008 年のワークショップで実施し、163 項目からなる質問紙を完成させた。

(4) データの共有化を図る為に、サンフランシスコ大学で開発された教育研究用の Web-site:DIVA 上に本研究のサイトを開設した

5. 主な発表論文等 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計 2 件)

(1) Ishihara I, Faucett J, Chang E, June KJ, Cheung K, Baldago LA, Laundry L, Kalampakorn S, Maruo SJ, & Hiroko S Survey Development of International Collaboration to study the Occupational Health of Nurses (ICOHN), The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science, 19-20 September 2009, Kobe

(2) Faucett J, Ishihara I, Whitaker, S, June KJ, Usher K, Chang E, Baldago LA,

Cheung K, Laundry L, Hong OS, & Kalmpakorn S, International Collaboration to Study the Occupational Health of Nurses, Third International Conference on Psychosocial Factors, at work, 1-4 September 2008, Quebec

[図書] (計 1 件)

(1) Ishihara I, Ikushima M, Yoshimine T, Nakatani J, Haraga M, & Hara Y, Occupational and Community Health of Nursing, University of Occupational & Environmental Health, Japan, Proceedings of the 1st International Collaboration for the Occupational Health of Nurses, 2008, PP151, ISBN:978-4-9904363-0-8

[その他]

(1) <https://diva.sfsu.edu/users/lynettel/laundry/groups/icohn>

(2) <https://ilearn.sfsu.edu/archive/course/view.php?id=58532>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石原 逸子 (ISHIHARA ITSUKO)
産業医科大学・産業保健学部・教授
研究者番号：30221071

(2) 研究分担者

生嶋 美春 (IKUSHIMA MIHARU)
平成19年度
産業医科大学・産業保健学部・准教授
研究者番号：80341212

(3) 連携研究者

吉嶺 敏子 (YOSHIMINE TOSHIKO)
産業医科大学・産業保健学部・准教授
研究者番号：60352324

中谷 淳子 (NAKATANI JUNKO)
産業医科大学・産業保健学部・講師
研究者番号：60341525

原賀 美紀 (HARAGA MIKI)
産業医科大学・産業保健学部・講師
研究者番号：70325728

原 善子 (HARA YOSHIKO)
産業医科大学・産業保健学部・助教
研究者番号：00412669

(4) 研究協力者

Stuart Whitaker RN, PhD
University of Cumbria, United Kingdom • Senior Lecturer
June, Kyung Ja RN, MPH, PhD
Soon Chun Hyan University, Korea • Professor

Sung-Hyun Cho RN, PhD
Hanyang University, Korea • Assistant professor

Kim Usher RN, PhD
James Cook University, Australia • Professor & Head of School

Esther Chang RN, PhD
University of Western Sydney, Australia • Director of Research

Lily Ann R. Baldago, RN, MS, EdDc
Professional Regulation Commission, Philippines • Regional Director

Kin Cheung, RN, PhD
The Hong Kong Polytechnic University • Professor

Julia Faucett, RN, PhD, FAAN
University of California, San Francisco, Professor Emeritus & The former Department of Chair

Oi-Saeng Hong, RN, PhD
University of California, San Francisco • Assistant Professor

Lynette Laundry RN, PhD,
San Francisco State University • Assistant Professor

Surintone Kalampakorn, RN, MPH, PhD
Mahidol University • Assistant Professor

Susinda Jarupat Maruo, RN, PhD
Mahidol University • Assistant professor

柴田 弘子 (SHIBATA HIROKO)
産業医科大学・産業保健学部・教授
研究者番号：00196429